

第55回定時株主総会
当社及び主要子会社の状況・経営戦略・今後の課題等についての説明

1. 中期的展望における経営方針について

当社は、ミネベアを「高成長会社」、「高収益会社」にすることを目的とした3カ年事業計画を昨年5月に策定し、公表致しました。

その実現の為に、次の通り三つの基本方針を定め、これを経営の3本の柱として日々の事業活動を推進しています。

経営の三本の柱

1. 最も収益力の高いベアリング、及びベアリング関連製品の増産を図る事
2. 精密小型モーターを中心とする回転機器事業を、ベアリング、及びベアリング関連製品事業に並ぶ柱に育て上げる事
3. 主要な製品に関して、高付加価値製品の比率を引き上げる事

これら3本の柱の実現は、全てミネベアの最大の特徴であり、その強さの源泉である“超精密機械加工技術”と“大量生産技術”が基本となっています。

2. タイにおける生産活動について

1982年にバンコック市の北方75kmの所にあるアユタヤ市に於て生産活動を開始して以来、19年が経過致しました。

現在タイは、4地域に工場群を展開し、従業員約3万2,000人、機械、建物等の固定資産投資総額が、2001年3月末の為替レート1バーツ2円77銭で計算した金額で約1,500億円、最新鋭の製造機械と環境保全施設を備え、ミネベア・グループの総生産高の約60%を産出するミネベア・グループ最大の生産拠点となっています。

2001年3月に、床面積約25,000平方メートルの流体軸受とHDD用スピンドルモーターの専用工場を竣工させた他、2000年10月にバンパイン工場の隣接地を購入し、土地面積を83万平方メートルと倍増させるなど、ミネベアの主力生産基地としての拡充を図りました。

今後も一層の拡大発展を計る予定です。

3. 上海における生産活動について

当社は、中国オペレーションを、21世紀におけるミネベア・グループの更なる発展の礎と位置付けて事業を推進しています。

1994年に上海市郊外にミネベア・グループ初の中国現地法人を設立し、ミニチュアボールベアリングとファンモーターの生産を開始致しました。

その後生産は順調に引き上り、現在の生産規模は、ボールベアリングが月産約2,000万個、ファンモーターが月産約500万個です。

現在、西岑工場敷地内に床面積約18,000平方メートルの新工場を、本年8月末の竣工を目指して建築中ですが、この新工場ではファンモーターと歪みゲージやロードセル等の計測機器の生産を行う予定です。

ファンモーターについては、新工場が完成しますと、スペース的には、現工場と合わせ、月産 1,000 万台の生産が可能となります。

ミネベア・グループの総生産額に占める中国の比率は約 11%強であり、ミネベア・グループの生産基地としては、タイに次で2番目の規模となっています。

上海には、現在子会社が 3 社ありますが、その 3 社を合せて資本金額は 193 億円、機械設備・工場建て屋など固定資産総投資額 475 億円、当期の売上高 249 億円、2001 年 5 月末現在の従業員数は、約 4,300 人です。

ちなみに、歴年での 2000 年には、上海市で第 8 位の輸出貢献企業として上海市から表彰を受けています。

中国の人口は、現在約 13 億人と言われていますが、生活水準の向上と共に、ミネベア製品を部品として使う、パソコン、ビデオ、エアコン、クリーナーなどの需要が高まっています。同時にそれら製品を生産する現地工場が増加しており、ボールベアリング他のミネベア製品への需要が急拡大しています。

ミネベアは、中国でのミネベア製品の市場が将来極めて大きくなるであろう事を念頭において中国での生産を開始致しましたが、その市場が今予想通り急拡大をして来ています。

今後、中国市場、及び世界市場の動向を良く見極めながら、時宜を逸することなく、中国工場の生産品目の増加、生産規模の拡大を計って参ります。

4. 借入金の返済について

当社は、1997 年 4 月より借入金返済を経営の最優先課題の一つとして、グループを挙げて取り組んで参りました。

その結果、ミネベア・グループの借入金残高は、現金預金を差し引いたネットベースで、1997 年 3 月末の 3,513 億円から、当期末には 1,732 億円にまで減少し、財務体質は大きく改善されています。

なお、当期は、1997 年 3 月期以来 4 期ぶりに、ネット借入金が前期末に比べて増加致しました。これは、高水準の設備投資資金支払充当のため、現金預金を取り崩したことに加え、為替が円安になったこと等が影響したためです。

また、ミネベア単体の保証債務残高は、海外関係会社の借入金減少により、前期末の 598 億円が、当期末には、474 億円となり、124 億円減少しました。

今後も不断に借入金返済の努力を継続して参ります。

5. 連結損益計算書について

当期より、ご参考として「報告書」の 20 頁、21 頁に、連結貸借対照表及び連結損益計算書を添付致しました。

このうち連結損益計算書について、その概要をご説明致します。

売上高は 2,870 億 4,500 万円と前期比 22 億 8,800 万円(0.8%)の増収となりました。

また、売上原価率が 70.7%と前期比 0.7%下がった事等により、営業利益は 329 億 7,700 万円と前期比 19 億 800 万円(6.1%)の増加となりました。

経常利益は、247 億 2,600 万円と、前期比 32 億 400 万円(14.8%)増加致しました。

特別損益では、更なる企業体質の改善をはかるため次の様な対策を実施致しました。

1. 家具の輸入販売子会社である株式会社アクタスを、2001年2月23日に、株式会社ティー・アール・エスへ譲渡致しました。この結果、関係会社株式売却益として特別利益に52億1,500万円を計上致しました。
2. 2001年12月末日をもって、車輪事業から撤退する事とし、京都工場の閉鎖を決定致しました。この結果、特別損失として車輪事業整理損27億6,200万円計上致しました。
3. 関係会社事業整理損として19億4,300万円を経常致しましたが、これはミネベア単体で計上致しましたミネベア音響株式会社、環中企業等の損失のうち、連結決算上処理すべき為替換算調整勘定等について計上したものです。

法人税等では、法人税、住民税及び事業税41億6,000万円に加えて、前会計年度より適用した税効果会計により、法人税等調整額に32億9,600万円計上致しました

これらの結果、当期純利益は148億2,600万円となり、前会計年度に比べ大きく改善致しました。

6. 流体軸受の今後の見通しについて

ミネベアは2000年2月29日に、ハードディスク駆動装置(HDD)とその関連部品の世界最大のメーカーである米国のシーゲート社との間で「流体軸受及び流体軸受搭載のHDD用スピンドルモーター等」に関し、「クロスライセンス契約」、「ノウハウライセンス契約」、及び「製品供給契約」を締結し、流体軸受ビジネスに参入致しました。

現在、当社では3.5インチHDD用を始め、数種類の流体軸受スピンドルモーターをタイ工場で量産中ですが、これらは全てシーゲート社向けです。本年11月以降は、シーゲート社以外への販売が契約上可能となります。

現在、流体軸受スピンドル・モーターの生産能力は月産50万台ですが、需要状況にあわせて生産能力を拡大し、本年末には100万台から150万台の生産を実現したいと考えています。

2001年3月末現在の流体軸受関連の総投資額は、機械装置で20億円、工場建物で30億円、合計で50億円です。

7. 自動車市場について

自動車業界は既に成熟期に入っており、今後、台数面で現在の年間約5,000万台を越えての急成長は望めませんが、省エネルギー、安全性、快適性等の要求レベルが高くなって来っており、これに対応する高度な制御を達成する為の、レゾルバーなどのセンサーや高性能モーターの需要が急速に拡大しつつあります。

これらの製品は、ドイツ子会社のプレジジョン モーターズ ドイツ ミネベア社(PMDM社)に代表されるモーター開発力、航空機搭載機器や防衛庁用機器の分野で長年培ってきたレゾルバーなどの開発・設計技術、そしてミネベアの強さの源泉である超精密機械加工技術、大量生産技術が大いに生きる製品であり、自動車市場はミネベアに打ってつけの市場です。

既に欧州自動車メーカー向けに、電動パワーステアリング用モーター、スピードメーターやオドメーター用モーター、ヘッドライトの光軸調整用モーターを納入していますが、国内自動車メーカーからも強い引合いを頂いています。

また、回転角度センサーであるレゾルバーにRDコンバーターをつけた製品を、昨年11月からサンプル出荷を行っていますが、日本及び欧米の大手自動車メーカー各社から強い引合いを頂いており、今期後半か

ら来期前半には納入が開始される見込みです。

他にも、ABS 用モーター、電動ブレーキ用モーターなど、多数の開発が進行中であり、順次市場に紹介して参ります。

以上